

平成28年度始業式 H28. 4. 8 (金)

○ はじめに～終業式(3/18)を振り返って

I 東日本大震災から5年が経過。

- ・ 一度で良いから浜通りの現状を自分の目で見てきてほしい。

II 「考えること」の重要性について

自分自身の頭で考え、自身を律することができる、それが安積の生徒。

III アインシュタインの言葉

The more you learn, the more you realize you don't know.

The more you realize you don't know, the more you want to learn.

学べば学ぶほど、知らないということを悟る。

知らないということを悟れば悟るほど、さらに学びたくなる。

○ 「震災後高校第3期生」129期生、

東大3(現役1=初の推薦入試合格、1浪で理科I類・理科III類)、

京大4(現役3、内1=初の推薦入試合格) 現役で東京医科歯科大、118期 山口大
卒業式でも「パイオニアたる安積ブランドを全国に発信」

130期、131期の君たちもこれに続いてほしい。

○ 将来の自分のイメージを鮮明にするためには、自分を徹底的に見つめる必要がある。

学べば学ぶほど、知らないということを悟り、知らないということを悟れば、悟るほど、さらに学びたくなって学び続ける凛々しい安高生の顔を始業式で見ることで、そして、在学中はもとより卒業後も生涯にわたって学び続ける姿勢を持ち続けることを期待して、私の話を終わる。

○ 3年生(130期)は最終学年(紫の学年章に心を引き締めた経験)

志望校への熱い思いが、目標達成にとって最も重要。今からしっかりと進路目標を定め、準備すべきことをしっかりと準備することが大事。

6月法施行 18歳選挙権 エポックメイキングな年

2年生(131期)は中堅学年としての強い自覚を。

勉強も部活動も、集中力で

「受験勉強は3年から」は間違い。

○ 高く掲げた目標に対する思いが強ければ強いほど、達成可能性は高まる。

君たちには力がある。切磋琢磨する仲間がいる。頼もしい先生がいる。

恵まれた人的環境(安積という不思議な坩堝

～「受験は団体戦、一人だが一人じゃない」)

だが、高く掲げた目標に辿り着くためには、地道な努力の継続。そのベースにあるのが人間性であり、謙虚さと誠実さが肝要。

川はいつも流れていなくてはならぬ

継続

石は転がり続けなくてはならぬ(like a rolling stone)

頭はいつも冷えていなくてはならぬ

冷静さ・集中

目はいつも澄んでいなくてはならぬ

謙虚・誠実・純粋

心はいつも燃えていなくてはならぬ

志を達成する強い気持ち